



# みどり



## 110号 『蚊が媒介する感染症』

2017年5月1日発行／編集責任者 田中 眞／毎月1日発行／群馬県藤岡市篠塚105-1

<http://www.shinozuka-hp.or.jp/center/>

「蚊媒介感染症」とはウイルスなどの病原体を持った蚊に刺されることにより感染する感染症の総称です。蚊媒介感染症は世界的に発生していますが、その流行地域は熱帯、亜熱帯地域です。近年本邦においても夏季の気温が上昇傾向にあることや、流行地域との人的交流が活発化していることから、蚊媒介感染症の国内発生が懸念されています。

### 本邦における蚊媒介感染症は？

本邦において発生、あるいは持ち込まれる可能性の高い6疾患と、媒介する蚊の種類を表に示します。

表. 本邦で報告される主な蚊媒介感染症

デング熱：

ネッタイシマカ、ヒトスジシマカなど

ジカウイルス感染症

ネッタイシマカ、ヒトスジシマカなど

日本脳炎： コガタアカイエカ

マラリア： ハマダラカ

ウエストナイル熱： ヒトスジシマカ、

アカイエカ、チカイエカなど

チクングニア熱：

ネッタイシマカ、ヒトスジシマカなど

このなかで日本国内での感染例が認められているのは、デング熱、日本脳炎です。ジカウイルス感染症は2016年ブラジルでの流行が問題

になりましたが、国内での感染例は報告されていません。

### 原因と感染経路は？

主に感染蚊に刺されることにより感染します。媒介する蚊は疾患により異なります(表)。

主な蚊はヤブカ属のヒトスジシマカとネッタイシマカ、イエカ属のコガタアカイエカ、アカイエカ、チカイエカです。

ヒトスジシマカ(通称ヤブ蚊)は5月中旬～10月下旬に、昼から夕方にかけて活動し(南西諸島での活動期間はこれよりも長くなります)ます。仙台より南の地域に生息しています。名前の通り藪、公園、墓地などの屋外で活動します。冬期に成虫は存在せず、卵の状態です。なお、日本においてネッタイシマカは常在していません。

コガタアカイエカは水田、沼地で発生します。活動範囲(飛行距離)は概ね2km前後もしくはそれ以上とされており、その飛翔力により、発生源のない都会でも見られます。夕方から夜にかけて活動しますが、光に誘引されることから屋内での吸血活動が多くなります。

★ ★ ★

デング熱、ジカウイルス感染症はいずれもヤブカ属によって媒介され、発熱と全身の発疹を特徴とする感染症です。

以下にデング熱，ジカウイルス感染症を解説します。

## デング熱とは？

デングウイルスによって起こる感染症です。感染蚊に刺された後，発症するまでの潜伏期間は 7 日前後です。デングウイルスに感染しても多くは無症状（不顕性感染）です。症状を呈する場合，発熱はほぼ全例で見られます。皮疹は発病後 2~7 日後の解熱期に，約半数の症例で見られます。通常は 1 週間程度の経過で回復します。しかし一部の感染者では重症化することが知られています。

通常ヒトからヒトへの直接感染は起こりませんが，妊娠中もしくは出産時に母から胎児，子へ感染します。

## ジカウイルス感染症とは？

ジカウイルスによって起こる感染症です。日本国内での感染例はありませんが，他国で感染して日本に入国後発症した例が 2016 年 11 月 22 日までに 10 例報告されています。

約 20%の感染者で一週間程度の潜伏期間を経て症状を呈します。多くの症例で掻痒感を伴う皮疹が認められますが，発熱の程度，頻度はデングウイルスより低い例が多いです。ギラン・バレー症候群の合併例が増加傾向にありますが罹患するのはごく一部で，多くは後遺症なく治癒します。

通常人から人への感染は起こりません。しかし，母体から胎児への経胎盤感染により小頭症などの先天異常をきたす場合があります。2015 年のブラジルでの流行の際に社会問題になりました。

\* \* \*

デングウイルスやジカウイルスに感染したヒトから蚊が吸血すると，蚊の腸の内壁細胞にウイルスが感染，増殖します。約 10 日後には唾液腺にも及び，唾液中にウイルスが放出されるよ

うになります。蚊自身はデングウイルスの影響は受けません。

\* \* \*

治療はいずれも対症療法が中心となります。

予防法として最も大切なことは蚊に刺されないことです。同時にヒトスジシマカの発生源をつくらないようにすることも重要です。ヒトスジシマカは空き缶に溜まった雨水など，小さな水たまりに好んで産卵します。住宅周囲の水たまりをなくすことで，今シーズンや翌年に発生する蚊の数を減らすことにつながります。

予防接種は，2015 年末に世界初のデング熱ワクチンが流行地域数カ国の 9~45 歳を対象に承認，登録されました。ジカウイルス感染症に対するワクチンは現在開発段階です。

★ ★ ★

次に，コガタアカイエカ（イエカ属）によって媒介される日本脳炎について解説します。

## 日本脳炎とは？

日本脳炎ウイルスによる感染症です。本邦では予防接種の開始により，患者数は著しく減少しました。ウイルスはブタの体内で増殖し，コガタアカイエカを媒介してヒトに感染します。例年，日本脳炎ウイルスを保有するブタが西日本を中心に確認されています。

感染しても発病するのはおよそ 1,000 人に一人程度で，大多数は不顕性感染で経過します。発病した場合の典型的な病型は髄膜脳炎型で，38℃以上の高熱，頭痛，嘔吐などに引き続いて意識障害や麻痺などの神経症状を呈します。

特異的な治療法はなく，対症療法が中心となります。予防の中心は蚊への対策と予防接種です。近年の日本脳炎確定患者の解析から，ほとんどの症例で予防接種歴がなかったことが判明しています。

（文責：金子 由夏）